

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

主 論 文 の 要 旨

論文題目 行為の過程から見る日本語の失敗を表す複合動詞の研究
—中国語との対照から—

氏 名 南 明 世

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、日本語の失敗を表す複合動詞「V1-忘れる」「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」「V1-逃す」「V1-そびれる」「V1-落とす」「V1-漏らす」「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の13語を取り上げ、意味の違いについて論じたものである。

従来の複合動詞研究では、前項動詞(V1)と後項動詞(V2)の結合規則について複合動詞全体を大まかに見たものや、個別の複合動詞の用法について見たものはあったが、「失敗を表す複合動詞」というカテゴリで体系的に論じたものはほとんどなかった。また、複合動詞の分析に関しては、主に①本動詞と複合動詞の意味的な対応、②共起するV1の特徴、③V1とV2の格関係の3つの観点からなされており、「行為の過程における位置づけ」という観点が希薄であった。これに対し、本研究では日本語の失敗を表す複合動詞13語を対象に、それぞれの語が行為の過程においてどの段階での失敗を表すかという観点から分析し、失敗を表す複合動詞の体系化を行った。

本研究の特徴は、心理学の分野で考察されている行為のプロセスを踏まえて、行為の過程を大きく「～しよう」と思ってから行動を開始するまでの「第一段階：意図段階」と、行動を開始してからその行動が終了し、その後その結果が残るまでの「第二段階：行動段階」の2つの段階に分類し、それぞれを更に2つの段階に分けて考えた点にある。これにより、何も意図していない状態(①)から始まり、「～しよう」と思い始めてから決意するまでの段階(②)、「～しよう」と思った気持ちを保持する段階(③)、実際に行動を始めてから終えるまでの段階(④)、行動が終了した後に何らかの結果が残っている段階(⑤)の5つの段階に区別して分析した。

まず第1章では本研究の目的として、失敗を表す複合動詞について行為の過程から体系的にその違いを考察することを提示した。その上で本研究の課題として、①「忘れる」と「V1-忘れる」など本動詞と複合動詞の対応を見る、②各複合動詞における共起するV1の違いを明らかにする、③各複合動詞における行為の過程の違いを明らかにする、④“忘-V1”など対応する中国語と対照することにより日本語の失敗を表す複合動詞の特徴を明らかにすることを提示した。

第2章では複合動詞に関する先行研究を概観し、本研究における分析の立場を示した。すなわち、

①本動詞と複合動詞の対応に関しては、先行研究では「V1-忘れる」と「V1-落とす」は本動詞との関係が論じられているが、それ以外の表現では考察が不十分であり、これらについても考察する必要があることを指摘した。②共起するV1についても先行研究では断片的な記述しかされていないため、本研究では現代日本語書き言葉均衡コーパスを利用して、各複合動詞の違いを比較することを述べた。③先行研究では行為の過程におけるどの段階での失敗かという観点が出ていないため、この点を明らかにする必要があることを主張した。④更に中国語と対照することにより、上記①～③の特徴についてより詳細な記述ができることを主張した。

第3章では失敗を表す複合動詞の考察の前提として、本研究で考える行為の過程について論じた。これは下の図のように、行為の過程を大きく「～しよう」と思ってから行動を開始するまでの「第1段階：意図段階」と、行動を開始してからその行動が終了し、その後その結果が残るまでの「第2段階：行動段階」の2つの段階に分類し、それぞれを更に2つの段階に分けて考えるものである。これにより、各複合動詞の意味の違いがより詳細に記述し、体系的に論じることができることを示した。

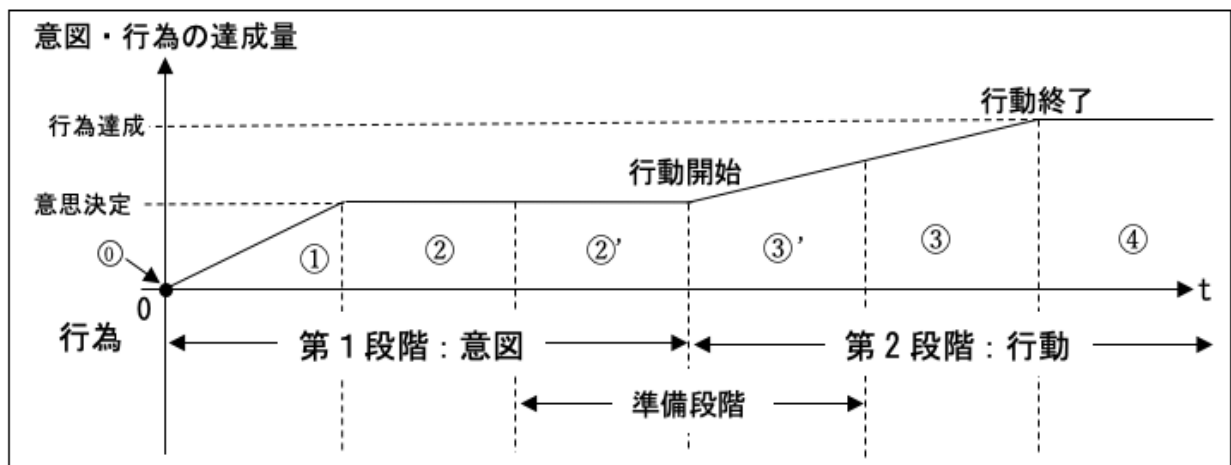


図 本研究で考える行為の過程

また、中国語と対照することにより、行動に移す前の②の段階と行動を開始している③の段階の間に準備段階があることを明らかにした。この準備段階は行為に移るために行われる行為で、例えば「買う」であれば、「買う対象物を探す」などが含まれる。中国語ではこの準備段階も“买”（買う）で表すことができるのに対し、日本語では別の動詞（探すなど）になる。このような違いが、失敗を表す複合動詞の使い分けにも影響している。例えば、「行きそびれる」はタイミングを逃した場合に使用されるが、この場合「行こうと思っていたが行けなかった」という意味を持ち、準備段階でも意図段階に近い②'の段階（本研究では準意図段階と呼ぶ）での失敗である。一方、同じタイミングを逃したという意味でも「行き損なった」であれば、行くための準備を行い、今まさに家を出る場面での失敗を表すため、準備段階でも行動段階に近い③'の段階（本研究では準行動段階と呼ぶ）の失敗である。このように、タイミングを逃すという意味でも行為の過程を更に詳しく見ることによって、場面によって使用される表現が異なることを指摘した。

第4章では日本語の「V1-忘れる」の意味について考察した。その結果、「V1-忘れる」は「言う」「食べる」といった他動詞と共起すると②の段階の失敗である「～することを失念する」という意味を表すのが基本であるが、「置く」と共起して④の段階の「～して、それを失念する」という意味を表したり、「見る」と共起して「～したのを覚えていない」という意味を表したりすることを指摘した。更に補文形式の「V {の/こと} を忘れる」とも比較し、補文形式の場合は⑩段階の失敗として「～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」という意味や③段階の失敗として「～していることに気づかない」という意味を表すことも指摘した。更に中国語では⑩段階から④段階の失敗すべてを“忘了-V”で表すため、中国語の共起範囲が日本語より広いことを指摘した。

第5章では日本語の「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」について考察した。「V1-損なう」「V1-損ねる」は「見る」「食べる」といった他動詞や「乗る」「行く」といった自動詞と共起し、③'段階の失敗として「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」という意味を表し、③段階の失敗として「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」という意味や「見損なう」の形で「相手への評価が想定より低い」という意味を表すことや、「死ぬ」と共起して⑩段階の失敗である「危うく～するところだった」という意味を表すことを指摘した。一方、「V1-損じ(ず)る」は主に「書く」「する」と共起し、③'段階の失敗として「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」という意味や③段階の失敗である「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」という意味を表すことを明らかにした。更に中国語では⑩段階の「危うく～するところだった」は“差点儿-V”と、③'段階の「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」は“没能-V”あるいは“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”、③段階の「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」は“V-错”で表すことを指摘した。

第6章では日本語の「V1-逃す」「V1-そびれる」について考察した。「V1-逃す」は「見る」や「聞く」「売る」といった情報や物を手に入れる意味をもつ動作動詞と共起し、②の段階の失敗である「必ず～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」という意味を表し、③の段階の失敗である「～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった」という意味や「犯罪を見逃す」のような「気づいていながら見ないふりをする」という意味を表すことを明らかにした。一方、「V1-そびれる」は「言う」「聞く」といった情報や物を手に入れる意味をもつ他動詞や「寝る」「帰る」といった人の意志的な変化を表す自動詞と共起し、②'段階の失敗として「～しようと思っていたが、外的要因によりタイミングを逸したためできなかった」という意味を表すことを明らかにした。更に中国語ではこれらの意味を主に“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”で表し、②および③の段階の失敗は“V-漏”でも表すことができることを指摘した。

第7章では日本語の「V1-落とす」「V1-漏らす」について考察した。「V1-落とす」は「見る」や「聞く」といった言語活動に関係する動詞と共起し、③段階の失敗として「～すべき事柄の一部に気がつかず、～することができなかった」という意味を表すことを明らかにした。一方、「V1-漏らす」は「聞く」「書く」といった言語活動に関係する動詞と共起し、③段階の失敗として「～すべきであったのに、その事柄の一部ができなかった」という意味や「あと少しで～することができなかった」

という意味を表すことを明らかにした。更に中国語では「V1-落とす」に対応する意味は“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”で表し、「V1-漏らす」に対応する意味は「～すべきであったのに、その事柄の一部ができなかった」の意味の場合は“V-漏”あるいは“漏-V”で表し、「あと少しで～することができなかった」の意味の場合は“没能-V”で表すことを指摘した。

第8章では日本語の「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」について考察した。その結果、「V1-間違える」は「見る」「聞く」といった言語活動に関係する語と共起し、「V1-間違う」は主に「見る」と「まかる」と共起し、「V1-違える」は主に「見る」と「とる」と共起し、「V1-違う」は主に「すれる」と「喰う」と共起し、「V1-誤る」は主に「見る」と共起し、③段階の失敗である「正しく行いうべきところを誤って別のことをした」という意味や「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」という意味を表すことを明らかにした。また、副詞的用法の「間違えてV」「間違っV」「誤ってV」とも比較し、これらは①の段階での失敗であることを明らかにした。更にこれに対応する中国語は複合動詞の用法は“V-錯”で表し、副詞的用法は“錯-V”で表すことを指摘した。

最後に第9章では本研究の成果についてまとめ、残された課題について述べた。